

「住み慣れた地域で一分一秒でも長く大切な方々と

笑顔で暮らせるサポートを！！」

横浜市泉区

株式会社NGU 生活維持向上倶楽部「扉」相談員

川辺文枝

I：はじめに

当事業所は、これまでの介護の在り方に疑問を持ち介護の仕事自体を辞めようと思ったパートナーが多く集まっている。その為まずは「今までの常識・知識・技術」を見直し、一人一人に向き合い「生活の営み」が継続できるような環境を創っている。その中で、パートナーひとりひとりが考え、想いの実践を大切に、メンバーさん・ご家族の生活の継続と想いが少しでも叶うように日々歩んでいる。

そのため、「なぜ？」と感じたことをすぐに相談でき、メンバーさん、ご家族の地域での生活を維持していく事が出来る様に社内研修に力を入れている。このような取り組みを通して「相手に伝える努力」ではなく「相手に伝わる努力」の為に「認知症ケアを根拠ある介護技術の根拠」から学び直し統一した根拠での関りを実践している。

また、介護の仕事が「お手伝い」や「世話をする」といった認識を変えるため、介護職＝ワーカーやヘルパーとしないで「Life Creator（生活を創造する仕事）」と名乗り、ご利用者をメンバーさん、職員をパートナーと呼び「共に歩む」ことを意識している。

さらには、地域で認知症のご本人、そのご家族が間違っただけの偏見から孤立しない様に地域への発信を「メンバーさんの活動している姿」や地域に出るイベントや勉強会などで発信をしている。

II：具体的な取り組み

まずは、本来「生活」はどのような事かを考え、「できない」「わからない」「危ない」といったことから、「できる」「わかる」「危険があるのは当たり前」と大前提におき、見える力・潜在している力を適切に発揮していただけるようにパートナー一人一人が「考えるケア」の実践をし、事業所内だけで完結するのではなく、外への発信にも力を入れている。また、介護が「企業（会社）」として成り立つように全員で意識をしながら活動の展開している。その中で、介護従事者だけでは限界があると感じている為、メンバーさんが中心とした活動を外で一緒に取り組んでいる。

前述した内容を継続していく為、まず会社全体として意識していく事が出来る様に、パートナー一人一人が考える力を養う事が出来る様な取組みを展開している。

- ・メンバーさんの日常の会話から「またやりたい」と言った内容を実現できるようにどのようなキッカケが提供できるかを考える。
- ・認知症や脳卒中の後遺症がある方でも色々できる事を知っていただくため外で活動している。例えば、畑での作業・ゴミ集積所や公園内の掃除・近隣の保育園への訪問・地域コミュニティへの参加・スーパーでの買い物・地域で開催のイベントに参加・門松作りなど
- ・事業所内に子供たちが入って来てくれるように駄菓子屋を行っている
- ・ご家族や地域の方に向けた様々な勉強会を年に4～5回開催
- ・基本的には、当事業所のパートナーが行うがゲストスピーカーとして医者・薬剤師・栄養士な

どもお願いをしている。

- ・SDGsの考えを元にした活動の展開。
- ・事業所に招いてのイベントではなく、地域に出るイベントの開催。その際は、法人の宣伝にならないようにNPOでの活動にし、外部の施設・事業所の方や地域の方と協力して開催を心掛けている。

また、介護や認知症啓発活動が前面にでてしまうとまだまだ偏見が先行してしまう為全く関係のない「プロレス」をメインにしたイベントを開催し、その中で本人さん達が自然と活躍（準備や片づけ・模擬店の売り子や徘徊シミュレーションでの対応を認知症の方に評価していただく等）している姿を見てもらえるようなキッカケを作っている。

当社は、介護事業だけではなく「NPO法人認知症フレンドシップクラブ横浜事務局」としての活動も展開している。この団体は認知症をタニンゴトではなくジブンゴトとしてとらえ、様々な方が地域で住みやすい活動を展開している。その為、この考えに賛同し、多くの活動を企画している。

- ・RUNTOMO（認知症啓発活動イベント）
- ・OrangeFes（地域ケアプラザとの共催による認知症啓発活動イベント）3回開催
- ・大船フラワーセンター外出
- ・溪流釣り
- ・鎌倉ハイキング
- ・高尾山登山ツアー 等

Ⅲ：考察

継続していく為には発案者だけの考えだけでは、その人だけの負担となり次に結び付かない。しかし「継続」して行くことこそが、大切であると考えている。その為、様々な活動をメンバーさん・ご家族、地域の方々と一緒に打ち合わせなども行っている。これらの事を継続して行く事で、社内だけではなく、地域に意識が向いてきているのではないかと考えている。

これは、外からの訪問客（県内外の介護従事者や行政・一般企業など）の多さや問い合わせの状況に繋がってきているのではないかと考えられる。又、当事業所は地域密着型通所介護事業所を運営しているが、お亡くなりになって利用終了となったメンバーさんのご家族とも、様々な場面で連携を図りご協力下さる事がある。この事はひとつの例だが、前述した項目を継続して行っていた事が伝わっているのではないかと考えている。

これらの活動・取り組みにより少しづつではあるが、地域の方から「おはよう」や「今日も畑？」等の声をかけて頂けるようになってきている。「認知症の方に見えない」「なんでもできるよね」「自分が介護が必要になった時はここに来たい」などと言っただけ、介護そして認知症のイメージが変わってきていると実感ができている。

Ⅳ：おわりに

当社は、小規模であり環境的に限られる事もある。しかし、ひとりひとりのマンパワーを發揮出来る様な場を整え、メンバーさんと共に住み慣れた地域でこれからの生活を営む事が出来る様な取り組みを展開出来る様に前進して行きたいと考えている。その為には物事を「タニンゴト」から「ジブンゴト」へと考え方をシフトして実践を展開して行く事が、今後の活動へと繋がっていくと考え実践している。